

大島力先生への感謝の辞

青山学院宗教部長 伊藤 悟

大島力先生には、どの言葉をもってしても感謝の意を言い表し切れません。宗教主任として、宗教部長として、研究者として、伝道者として、その言葉や働きから学ぶところはじつに大きなものでした。共に苦悩や喜びを共にしてきた大学宗教主任としては、いつの間にか私が一番古くなりました。今年で、大島先生と20年共にキャンパス・ミニストリーに携わってきたことになります。

私よりも6年ほど早く着任された大島先生は、当時、理工学部所属でいらっしゃいました。世田谷区廻沢に理工学部のキャンパスがあり、その敷地内にスクーンメーカー寮（女子寮）もありました。その頃の理工学部生の就学キャンパスは一年次は厚木キャンパス、二年次以降は世田谷キャンパスでありましたので、一・二年次に配置されていたキリスト教概論は、それぞれ厚木キャンパスと世田谷キャンパスで開講され、さらにオンラインなどない時代の会議のために、また学生団体の指導・牧会、学院の諸行事があればその都度青山キャンパスに出向くことになり、大島先生は、じつに三つのキャンパスを、曜日や時間のやりくりをして行き来する日々を送られていました。

折しも私が本学に就任したのは大島先生が特別研究年を過ごされた年であり、私は大島先生のこなしておられたスケジュールをその年、ほぼすっぽりカバーすることになりました。折しもその年はまた、相模原キャンパス開学の一年前、すなわち厚木キャンパスと世田谷キャンパスの閉学前最後の年でもありました。そのため、世田谷キャンパス担当宗教主任となった私は、相模原キャンパス移転準備をされて研究年に入られた大島先生の研究室をそのまま使わせていただくことになり、スクーンメーカー寮のチャプレンも含めて、大島先生のお働きの代打をすることとなったわけです。そうしたことで、世田谷キャンパスの礼拝やキリスト教活動について、また、大変なキャンパス移動の毎日

を知っている宗教主任は、今では大島先生と私だけとなりました。私はほんのわずかな期間でしたが、世田谷キャンパスのアットホームな雰囲気やスクーンメーカー寮での寮教育の意義、そこでの毎週火曜日夜食後の全員揃っての夕礼拝を経験し、それらは今となっては大変よい思い出であり、大島先生と私が共有できる宝でもあります。

翌年開学した相模原キャンパスでは、大島先生と私、ほか二名の宗教主任がキャンパス担当となり、文字通りまったく新しいキャンパス・ミニストリーの在り方をゼロから作り上げていくことになりました。大学礼拝の在り方、宗教センター学生団体の体制、青山スタンダード教育の開始と共にキリスト教科目の新たな展開、地域密着型のキャンパスにすることを目指したコンサート、講演会、公開講座、相模原祭、クリスマス・ツリー点火祭など、すべてにおいて新しいチャレンジでありました。本学宗教主任会のチーム・ミニストリー体制を整えていったのも、相模原キャンパス開学が大きなきっかけでありました。

その後何年かして、大学宗教部長に就任されるために大島先生は経済学部に移籍され、大学のキャンパス・ミニストリー全体を取りまとめる立場になりました。どんなときにも冷静沈着で、事柄にはつねに用意周到に臨み、一つ一つを丁寧に取り扱っていく様は、その重要さを、私はのちに大学宗教部長になってから多く気づかされることになりました。そうした大島先生の慎重で緻密な姿勢は研究活動においても裏付けられていました。日本を代表する旧約聖書学者として多くの論文・編著書・監修書を世に出され、2018年に刊行された聖書協会共同訳聖書の翻訳者の一人としてその作業に参加されたことは、青山学院にとっても大きな誇りでありました。現在のキリスト教概論の教科書『地の塩、世の光』は大島先生のリーダーシップがなければ世に出ることはありませんでした。総合研究所キリスト教文化研究プロジェクト、そこから生起したソーパー・プログラム、東日本大震災後のボランティア支援活動の発足、その他今日も動いている数々の宗教主任の関わるプログラムには、つねに大島先生の実導力、推進力、綿密な下準備、他部署との交渉があったことを忘れるわけにいきません。

しかし何にもまして、大島先生は本当に尊敬する伝道者でありました。礼拝で語られる説教はいつもよく準備され、毎回教えられることが多く、私は大島先生の説教をいつも楽しみにしていました。激務の中でも、教会での奉仕も長年続けられました。二刀流でありました。教会奉仕を言い訳に大学の仕事の手を抜いたり、大学の仕事を理由に教会奉仕を軽視したりすることは、私が知る限り一度たりともありませんでした。おそらく御自身の中で徹底されていたのでしょう。言葉と行いをもって宗教主任たるもの、伝道者たるもののいろはを教えてくださった大先輩でありました。

大島先生がキャンパス・ミニストリーの第一線を退かれるのは、私にとっては不安でしかありません。忍び難い苦しみでもあります。ともに祈った日々を今思い起こします。どうかこれからも叱咤激励くださり、祈りのうちに覚えてください。心からの感謝の意を表するとともに、ますます伝道者としての歩みを確かにされ、ご健勝にて歩まれることをお祈りしております。